

# 穏やかな気候に 育まれた伊達の産業

## 伊達市の気候

気候は、噴火湾に面しているため、日本海から津軽海峡を通過する対馬海流の影響を受け四季を通し温暖。初霜は平年11月と道内で最も遅く、根雪の量も極めて少ないなど積雪寒冷の北海道においては恵まれた気象条件を有していることから「北の湘南」と称されています。

※気象庁札幌管区室函館地方気象台 2020 データ／伊達地域より

年間  
平均気温

9.3℃

年間  
降水量

654.0mm

年間  
日照時間

1,800.6時間



【藍の花】 藍の畑が一面に広がる篠原さん宅前。この風景が見られるのは北海道ではここ、伊達だけ。



北黄金町藍栽培農家  
篠原 一寿さん

## 伊達・藍生産の歴史

### 篠原一寿さんの取組み

北海道開拓時代、道内各地で主に藍の主産地であった四国出身の移住者によつて藍の栽培が試みられました。伊達では北海道で最も早く明治7年から栽培が始まり、長流川・紋・釧路・牛舎川流域を中心に作付け面積も増え、北海道の藍生産地になりました。その後、明治30年代からインド藍の輸入、ドイツの人造藍の輸入に押され、藍の価格が下落し生産は全国的に衰退しましたが、北海道では現在唯一、伊達市北黄金町の篠原家でのみ藍の生産が行われています。

篠原一寿さんは百年を超えてなお代々受け継がれている藍づくり農家の4代目。今は伊達の藍ばかりでなく、全国に藍を出荷しています。また、藍生産のみならず藍染めも埼玉県専門家に6年間通って本格的に学び、最初は地元で婦人たちに教えていましたが、現在では道内各地の藍染め講習でも教えています。

藍畑は現在、家の前など3カ所に計6ヘクタールあり、年間約15トン収穫しています。一番難しいのは、収穫した藍を冬季の4カ月に水を掛けて自然発酵させる技術で、水を掛けて温度管理しながら切り返す作業を繰り返していきます。

## 藍の効能と利用法

藍には様々な効能があると言われています。たとえば、防虫効果・殺菌

効果に優れているといわれ、肌荒れ・冷感性やあせも・かぶれ・水虫などの予防に藍染めの下着や靴下、包帯が重宝されています。また、解毒や鎮静剤などの薬効もあるとされ、昔の旅人は藍の葉を常備し、食あたりや熱冷ましに用いていたそうです。

さらに、藍に含まれる抽出成分が美白作用や抗酸化作用、抗アケネ作用(皮膚をなめらかにする)などの働きを持つとされていることから、化粧品にも用いられています。

## COLUMN

### 伊達の新名産・いちご

伊達市は東日本大震災から約2ヶ月後の2011年5月中旬、姉妹都市・宮城県亶理町のいちご農家を対象とする被災農家受け入れ事業の実施を決めました。東北一のいちご産地だった亶理町は、震災による津波でいちごの栽培が難しい状態となったため、6世帯のいちご農家の受け入れを行いました。温暖な気候を持つ伊達市で有珠山の見える土地に最新型のハウスを建設し、新たな名産品となることを目指しています。

